

ある町の天気相談所

Vol.21
2019.9.6

令和元年9月号



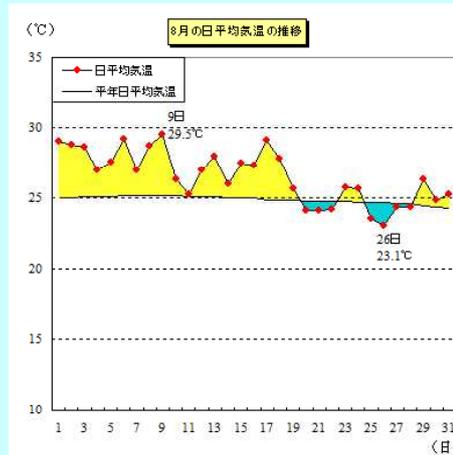
7・8月の暑さ

7月下旬の梅雨明け前後から8月前半を中心に、太平洋高気圧に覆われる日が多くなりました。7月下旬は大雨が不安定な時もありましたが、8月上旬は雨も少なく、晴れの日が多くなりました。8月下旬になると、太平洋高気圧の勢力が弱まる日が増え、湿った空気が入り、雨や曇りの日が多くなりました。

南西の風が多く、市役所では、夜も気温が下がらない日が多くなり、朝の最低気温が25度を下回らない熱帯夜は、7月下旬から8月中旬にかけて15日とかなり多くなりました。8月まで、35℃以上の猛暑日はなく、30度以上の真夏日は23日と昨年より少なくなっており、最高気温は、記録的なほどではありませんでしたが、8月の平

均気温は26.5度と、8月としては5番目に高くなりました。これは、8月9日の最低気温が過去2番目に高い気温を観測するなど、最低気温の月平均が23.9度と3番目に高い記録となったため、平均気温を押し上げました。

8月の日照時間は193.2時間と平年より多くなり、逆に降水量は、8月下旬以降は雨の日が多くなったものの、75ミリと平年の52%しかありませんでした。



1カ月予報 (気象庁発表)

9月は、天気が周期的に変わります。上旬と下旬は雨の日が多い予想です。気温ははじめ「高く」後半は「平年並み」、降水量は「平年並み」の予想です。

天気相談所のあゆみ

天気相談所の1日 (予報)

天気相談所での予報資料は、全球モデル (GSM) と呼ばれる数値予報と、この数値予報から計算されたガイダンスと呼ばれるものを主に使用しています。

1日4回更新される資料のうち、最新のものを利用しますが、前回、前々回の資料との違いや同じ点を確認することで、予報精度がについての確認も行っています。一般的に、前回と同じような傾向を示していれば、精度が高いと判断できます。また、予報資料と実際の状況の比較によって、予報資料が時間的にずれているのか、場所がずれているのか、なども確認しています。

時には「昨日の資料の方がよい」と言うときもあります。そのため、予報当番でない日でも、数値予報などを確認しています。

また、「数値予報がこんな時は、日立ではこのような現象が起こる」という経験則も使います。

これらの資料を解析し、今後の天気の変化について、頭の中でいくつかのイメージを作りあげていき、そのうちの1つを天気予報として発表しています。

天気に用いる基礎知識

気温の言葉2

最高気温がある基準を超えた日についての呼び名があります。最高気温が25℃を超えた日を「夏日」といいます。市役所における夏日は、4月下旬頃から10月上旬に観測され、最も早い記録は4月4日 (1964年)、最も遅い記録は、12月5日 (2004年) となっています。年間に70日ほど観測され、最も多い年は109日、少ない年は49日です。

神峰の山から

8月6日イトーヨーカドー日立店において、「出張！天気相談所」を開催しました。当日は自由研究の相談の方や、お店に買い物に来ていた方などに、実験や機械の説明、疑問などにお答えしました。学校や会社、地域の集まりなどにも参りますので、ぜひ、お声かけください。

ケーブルテレビ (ジェイウエイ)

の中で、今年度から、「お天気豆知識」を放送しています。日立の気象の特徴や、天気予報で聞く言葉の解説などを放送しています。今年度の筆者の出番は終了しましたが、他の気象予報士が登場しますのでぜひ、御覧ください。

筆者にない発想で斬新な、ためになる話が聞けるかと思えます。